

学校改善につながる実効性のある学校評価の充実

学校改善につながる 実効性のある 学校評価の充実

～学校評価システムを活用した
PDCAサイクルに基づく
学校改善の推進に向けて～

『岐阜県教育ビジョン』より

重点目標4 地域に根ざし地域の特色を生かした活力ある学校づくりを進めます

- (1) 学校マネジメントの向上
- (2) 開かれた学校づくりと学校評価

◆取り組むべき施策

学校評価システムの充実

各学校において実施される自己評価や、保護者、学校評議員、地域住民等による学校関係者評価について各学校の課題を明らかにし、学校改善につながる実効性のある学校評価システムの充実に努めます。

平成24年3月
岐阜県教育委員会

平成25年2月1日

岐阜県教育委員会

学校評価に係る法的な整備

Q1 学校評価の法的位置付けは？

A1

学校評価は、学校教育法、学校教育法施行規則及び岐阜県立高等学校管理規則に基づいて行われます。

岐阜県立高等学校管理規則

【学校評価】

第七十二条 校長は、学校の教育水準の向上を図り、及び学校の目的を達成するため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、職員による点検及び評価(以下「自己評価」という。)を行うとともに、その結果を踏まえ、学校評議員、保護者等による点検及び評価(以下「学校関係者評価」という。)を行うものとする。

2 校長は、自己評価及び学校関係者評価を行うに当たり、教育委員会との定めるところにより、あらかじめ必要な項目を定め、学校評議員、保護者等に説明するとともに公表するものとする。

3 校長は、自己評価及び学校関係者評価の結果を学校評議員、保護者等に説明するとともに公表するものとする。

4 校長は、自己評価及び学校関係者評価の結果を教育委員会に報告するものとする。

学校教育法

第四十二条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るための必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

第四十三条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の連絡を求めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進を図るため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

※これらの規定は、第六十二条により高等学校にも準用されます。

学校教育法施行規則

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実態に応じ、適切な項目を決定して行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を公表するものとする。

第六十八条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※これらの規定は、第六十四条により高等学校にも準用されます。



岐阜県の県立高等学校では、以下のことが義務付けられています！

- 自己評価の実施とその結果の説明、公表
- 学校関係者評価の実施とその結果の説明、公表
- 自己評価及び学校関係者評価の結果を教育委員会への報告

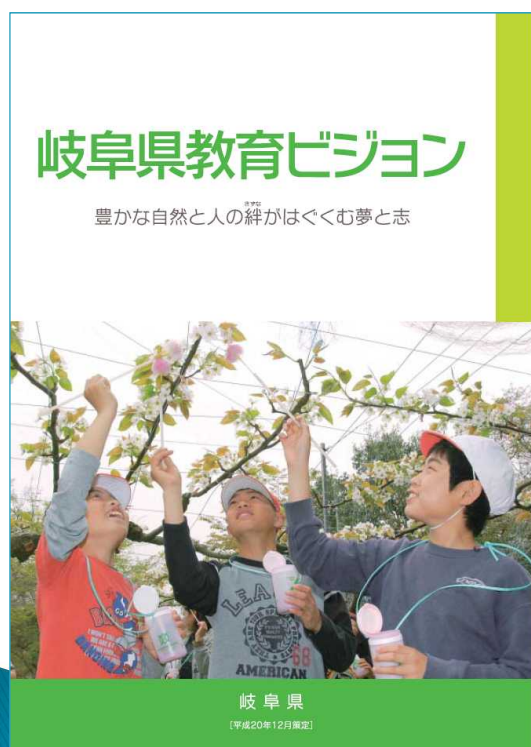
岐阜県立高等学校管理規則の改正



学校関係者評価の公表の義務化

(学校教育法施行規則では努力義務)

学校評価に係る法的な整備



岐阜県教育ビジョンの 策定(平成20年度)

地域に根ざし地域の特色を生かした
活力ある学校づくりをめざす

- ・学校マネジメントの向上
- ・開かれた学校づくり

を県民に提示

学校評価に係る法的な整備

- ▶ 学校評価(自己評価)の実施、公表
 - ▶ 学校関係者評価の実施、公表
 - ▶ 県教育委員会への報告
- 平成20年度からいずれも100%

学校評価の内容の充実が求められる

学校評価の充実に向けて

Q2 学校関係者評価を生かすには？

A2 学校関係者評価の目的及び評価結果の取扱いについて、職員間で理解と納得のできる共通認識をもつこと。

学校関係者評価をなぜ実施するのか？

- 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校がお互いに理解を深めるため
- 学校の自己評価の信頼性、透明性を高めるため
- 保護者や地域住民などが、よりよい学校づくりのプロセスに参加するため

学校関係者評価を効果的に行うために

【1】目的の会議で、学校関係者評価委員に以下のことを説明し、理解を促しておく

- ▶ 学校関係者評価の目的 → 「学校の改善、評価委員への役割も同時に提示」
- ▶ 学校関係者評価委員の活動内容と評価結果の活用方法 → 「互いの役割も説明」
- ▶ 学校の現状と課題、今年度の重点目標と目標達成への具体的取組 → 「マニフェストを活用」

学校関係者評価委員に、具体的な取組の進捗状況を知ってもらうために、学校訪問を促す

- ▶ 単に授業や学校行事の参観、施設見学などにならないよう留意 → 「学校関係者評価委員にとって、後日の評価活動につながるよう、観察してもらいたいポイントを事前に説明」
- ▶ 観察の意中に、学校関係者評価委員が教職員や生徒たちからヒアリングやインタビューできる機会や時間を設定 → 「授業中、空席に申しかけることのないよう、済み時間を利用」

年度末に関する自己評価について評価する会議では、以下のことに留意する

- ▶ 今年度の重点目標と目標達成への具体的な取組に関する自己評価に絞った議題を設定 → 「突然と会議を進行すると、保護者や地域住民の関心度が落ちやすい特定の議題に終結したり、学校を非難する場になりかねない」
- ▶ 学校関係者評価委員の立場に立った議題進行 → 「全ての資料のデータや数値を読み上げるようなことはせず、結果の概要と学校としての解釈、課題への対応策を中心に説明」
- ▶ 議論のプロセスを通して、次年度の学校改善に生かすためのヒントを得ること → 「学校側からの説明はテーマごとに絞って、それぞれについての賛同や意見の時間を十分に確保」

ここがポイント

学校関係者評価委員の皆さんが、自分たちは「最強の学校サポーター」なんだ、自分たちは「学校にとって心強い応援団」なんだと感じることができるよう、学校関係者評価委員の役割を工夫しましょう！
また、次年度への具体的な改善策に、学校関係者評価委員の皆さんが関わることもできるよう、POCAサイクルに工夫をしてみましょう！

提示例 岐阜県立〇〇高等学校 学校関係者評価委員の皆さんへ

学校関係者評価委員への参加に当たって

それぞれのお立場から、委員会に参加ください！

- 専門家ではない、学校に身近な関係者としての皆さんの意見が必要です。
- 学校の仕組み、学校評価の方法など分からないことがあれば、どんなことでも学校に納得がいくまで質問してください。皆さんの質問が、学校の振り返りの機会になります。

学校の応援団となってください！

- 学校関係者評価委員の役割は、学校に点数を付けたり、格付けをすることではありません。学校に合う生徒のためになる、よりよい学校を作るためのアドバイスをお願いします。
- 学校に対する理解や納得を深め、学校づくりに積極的に参加してください。

学校関係者評価について

「学校関係者評価」とは、学校評議員、保護者、地域住民等の学校関係者が、教職員が実施する「自己評価」の結果について評価することを基本とします。

自己評価

～教職員による評価～

学校評価の最も基本的なもので、学校改善に向け、校長のリーダーシップの下、学校の教職員が参加し、設定した重点目標や学校評価計画等に基づいて、その達成状況や進捗に向けた適切な取組等について行う評価。

学校関係者評価

～学校評議員、保護者、地域住民等による評価～

学校による自己評価の信頼性や透明性を高めることを目的とし、学校の教育活動の改善や意見交換等を通じて、自己評価結果について評価する。評価活動を通してコミュニケーションにより、教職員と共通理解をもつとともに、学校の改善のために連携、協力する。

学校関係者評価委員の1年間の流れについて(案)

項目	内容	全員の参加
4月	学校関係者評価委員への選任	◎
5月	第1回学校関係者評価委員会	◎
6月	学校訪問(〇〇の視察公開)	◎
8月	学校訪問(生徒会と職員室)	◎
10月	第2回学校関係者評価委員会を実施する場合	◎
2月	学校訪問(〇〇科授業研究発表会)	◎
3月	第2(3)回学校関係者評価委員会	◎

◎ 学校評価の開始時期
◎ 学校関係者評価委員の選任
◎ 委員会による学校関係者評価委員の選任
◎ 委員会としての活動内容や評価方法の説明
◎ 学校関係者評価委員の選任
◎ 委員会による自己評価の信頼性や透明性を高めることを目的とし、学校の教育活動の改善や意見交換等を通じて、自己評価結果について評価する。
◎ 評価活動を通してコミュニケーションにより、教職員と共通理解をもつとともに、学校の改善のために連携、協力する。

学校評価の充実に向けて

研究指定校の実践

参考 研究指定校の参考になる実践事例

自己評価における実践例

課題解決に向けての具体的な施策を考えるために

- 学校の「いいところ」探し**
 - 全職員を学年、分科、教科の異なる4～5人のメンバーからなる小グループに分ける。
 - 各グループ内で、「生徒」、「職員」、「保護者、地域」、「その他」について、自分たちが得意に、それぞれの「いいところ」を一つ一つ記入する。
 - 記入された付箋を共通事項ごとに分類し、題名を付ける。
- 学校の「いいところ」探し**
 - どんなことに取り組めば、「得意」が付いた「いいところ」が実現するのかについて、グループ内で、「生徒の取組」、「職員の取組」、「保護者、地域の取組」、「その他の人々の取組」ごとに色分けした付箋を貼って、「アイデア」を話し合う。
 - 各グループ内で、出されたアイデアを「実行に向けた課題意識」、「実行による効果」の軸に分けて「難易度・効果シート」を適用し、分類する。
 - 各グループごとに、「難易度・効果シート」について発表する。全職員で、「実行が容易で効果が大きいものは、今すぐやる」、「効果は大きいながかなか取り組めないものは、中期的目標と定め、今から準備を進める」ということの共通理解を図る。
- 「実行策検討シート」の作成**
 - 学校評価研究推進委員で、各グループから提出された「難易度・効果シート」を分析する。
 - 学校評価研究推進委員は、分析結果をもとに、学校全体で取り組むべき施策を「実行策検討シート」にまとめる。
 - 各分科、教科への施策として、「実行策検討シート」を配布する。
- 「ビジョン展開シート」の作成**
 - 各分科、教科は、「実行策検討シート」をもとに「ビジョン展開シート」を作成する。
 - ビジョン展開シートには、「中期目標としての目指す姿」、「目指す姿としての目指す姿」、「(現状)を明確にした上で、「具体的な取組内容(実施形態、方法)」、「予想される変化や反応」、「取組に対する評価基準」;取組完了後の対応や次の手立て」を記入する。
 - 各学級や「ビジョン展開シート」を検討することにより、共通理解を図る。

文部科学省委託事業 「学校評価・情報提供の充実・改善等に向けた取組」研究指定校

平成20、21年度：武庫高等学校 平成23年度：旭高高等学校/多岐高等学校

生徒及び保護者等を対象とするアンケートに関する実践例

アンケート結果を、自己評価の材料として適切に活用できるように
質問項目の見直し

- 従来から行っているアンケートで、「わからない」に回答する割合が多かった質問項目について、なぜわからないと回答するののかを検討し、質問項目をやり直し実施した。
- 調査委員の関与は、近年比較で経験者のみならず、初めて関わった者も含まれた。
- 「わからない」を無くし、安心して回答の意欲のある結果が得られるようになった。
- 全員の保護者に回答を依頼し、その結果も取り入れる体制を構築した。

結果：アンケートを通して、保護者の教育活動への関心を引き付ける結果につながった。

学校関係者評価に関する実践例

学校関係者評価委員の意見を、学校改善につなげるために

学校関係者評価委員のメンバー構成における工夫

- 地元の小中学校の保護者や進路担当の職員にも学校関係者評価委員を依頼した。

結果：学校PRのための取組(パンフレット、学校ホームページ、学校新聞等)が、小中学生やその保護者にとっては効果的に機能していないことが分り、情報発信における取組について改めて見直し、効果的にコミュニケーションを図ることができた。

学校関係者評価委員の選任、進行における工夫

- 年度末中に、中間評価に関する学校関係者評価を実施した。

結果：現状課題の付きにより具体的な評価にとどまらずに改善がされた。
重点目標及び目標達成のための施策の修正を行うことができた。

- 保護者(大学教員)に、学校関係者評価委員の経歴を依頼し、委員会の進行をしてもらった。

結果：学校からの一方的な説明に終結することなく、各委員から多様な建設的な意見を聴取することができた。

参考資料

学校評価に関するホームページ

- 岐阜県教育委員会 → <http://www.gifu-net.edu.jp/gkc/gyoko.html#4>
- 文部科学省 → http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakko-hyoka/index.htm

学校評価に関する冊子

- 学校評価ガイドライン (平成22年8月) (文部科学省 平成22年7月20日)
- 学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくりに向けて (文部科学省 平成21年3月)
- 学校関係者評価委員の研修に係る調査研究 (株式会社 産業技術研究所 平成22年3月)

学校評価の充実に向けて

研究指定校の実践

- ① 自己評価における実践例
 - ・課題解決に向けての具体策を考えるために
- ② アンケートに関する実践例
 - ・アンケートの結果を、自己評価の材料として適切に活用するために
- ③ 学校関係者評価に関する実践例
 - ・学校関係者評価を学校改善につなげるために
 - 学校関係者評価委員のメンバー構成
 - 実施時期
 - 進行の工夫

① 自己評価における実践例

課題解決に向けての具体策を考えるために

プラス思考に基づく「目標」の探究

～学校に「元気」と「勇気」を解発するために～

- ▶ 「評価」とは、物事の価値を「ことば」で表すこと、「言葉」で表現することにより、いたずらな徒労感や不安感を払拭することができる
- ▶ できないことをできるようにするより、今できていることをもっとできるようにする方が容易で、達成感が大きい

 全職員で学校の「いいところ」探し・伸ばし

全職員で、学校の「いいところ」探し・伸ばし

・グループ編成

5～6名 教科・分掌・年齢をばらばらに分ける

研修方法

- 1 生徒、職員、保護者、地域のよいところを色分けした付箋に記入
 - 2 共通した題目になるものを分類
 - 3 どんなことに取り組めば、本校のもっと「いいところ」が発展するのかを付箋紙で色分けして記入
 - 4 難易度・効果シートにより分類
- (後日)
- 5 研究推進委員会で実行対策シート作成
 - 6 ビジョン展開シートの作成

研究指定校の実践

○研修会の様子

教科・分掌・学年・年齢がばらばらな5～6人のグループ



